

進路

だより

2016年4月8日(金)
貝塚市立第二中学校
NO1

新しい出会いを大切に

いよいよ三年生のスタートですね。今度のクラスにはどんな仲間がいるのだろうか？担任の先生はだれに決まるのだろうか？教科の先生は変わるのだろうか？クラブの顧問の先生はどうなる

のだろうか？・・・と、みんなはドキドキワクワクの中今日を迎えたことと思います。そして、きっとたくさんの新しい出会いがあったことでしょう。この新しい出会いを大切に、中学生生活最後の一年間を、一日一日味わうように過ごしていけたらいいですね。

進路だよりを発行します。

これから一年間、この進路だよりで、進路に関する様々な情報を発信していきます。必ず、す

べてに目を通し、配布されたその日のうちに、家庭で保護者に見せてください。重要な情報を後で「見ていなかった」ということが絶対にならないようにしてください。

いまから、ここから

進路って、まず何から考えたらいいんだろう？

したく
支度

黒田三郎

何の匂いでしょう
これは

これは
春の匂い
真新しい生地きじの匂い
真新しい革かわの匂い
新しいものの
新しい匂い
匂いのなかに
希望も
夢も

幸福も
うっとりど
浮かんでいるようです

ごったがえす
人いきれの中で
だけどちょっぴり
気がかりです
心の支度はどうでしょう
もうできましたか

(「新選 黒田三郎詩集」思潮社)

●子どもの気持ち・保護者の気持ち

「ついに3年になってしまった」・・・「進路」という言葉を聞くと、君たちも保護者の方も、そう思ってしまうのではないのでしょうか。

上の「^{したく}支度」という詩を読んでも、「支度なんかできているだろうか?」「どんな支度をすれば(どんなことをしておけば)いいんだろう?」と、かえって不安になるかもしれません。いや、きっとほとんどの人は、そうだろうと思うのです。

お家の人も、君たちを見ているといろいろ不安になることもあるようです。「この子は進路のことを少しでも考えているのかしら?」「いつになったらこの子は勉強するようになるのかしら?それで間に合うのかしら?」「私がこんなに心配しているのに…」と思えば思うほどますます心配になってしまうものです。

そして、だいたいの人々の不安の原因は「まず、何を考えて何をやればいいのかかわからない」ということでしょう。だから大人から「何も考えてない」「何も取り組んでない」といわれたりする事もあるのではないのでしょうか。

●「自分の進路は自分で決める」ために

進路に向けての「^{したく}支度」というのはどういう事をすればいいのか?ということからこれらいっしょに考えていきましょう。私たち3年生の教師は、君たちにさまざまな見通しを示しながら、将来を考えるきっかけを提供したいと思います。

そして、最終的に、みんながそれぞれ「自分の道(進路)を自分で決めていってくれること」が私たち教師の目標です。

進路は先が見えないから不安なもの。けど、「不安だ。何をしたいかわからない」といって何もしないのが一番よくないことです。とりあえず、次のことをしっかり取り組んで下さい。



【1】しっかり授業に取り組む。

一時間、一時間の授業で、みんなが着実に力をつけてくれることが私たち教師や保護者の願いであり、君たち生徒一人一人の願いでもあります。そのために、三年生では特に**授業態度を大きく評価します**。おたがいの進路を大切にするために学校生活の中心である授業を大切にしましょう。

【2】提出物を必ず出す。

提出物は日々の努力の積み重ねであり、君たちの授業への取り組みの意欲を具体的に表すものです。大きく評価しますので忘れず期限までに提出しましょう。

【3】毎日家庭学習をする習慣をつける。

1つのことを記憶するには、何回もくり返し学習することが必要です。

毎日必ず家庭学習の時間をとり、

①その日の復習

②1, 2年の復習

を日課にしてほしいと思います。

裏へ続く

■ 保護者の皆様へ

子どもたちといっしょに歩いていたら

「ついに我が子も中学三年生になった。」…そう思うと、それだけでなんだか緊張してしまうものかもしれません。「今年は我が家も大変だわ」と思う方も多い事でしょう。けれども、子どもが進路選択を迎える年というのは、「楽しみ」はないものなのではないでしょうか。

もちろんそんなことはありませんね。

何より、「大人になっていく自分の子ども」を発見する、保護者としても感激できる年のはずです。急激に大人に近づいていく、たくましくなっていく子どもたちを間近に見るのは、大人のわれわれにとって刺激的な事ですね。

また、この1年は、ご家庭でも、大人としての意見、経験など、「生き方」を子どもたちに伝えるまたとないチャンスだと思うのです。そんなかっこいい言葉で言わなくても、子どもたちは「自分の保護者や他の大人が今までどう生きてきたか？」という事にはとても興味を持っていますから、ぜひ話してみてください。それはまた、われわれ大人自身にとっても自分自身の人生を振り返り、これからを考えるきっかけにもなると思います。子どもの相談に乗りながら、子どもといっしょに考えていく事で新たな発見(子どもについて、自分について)がきっとある事でしょう。そう考えると、進路の年も楽しみが生まれてくるような気がしませんか？

「自分の進路は自分で決める」ということについて

先に、子どもたちに向けて「自分の進路は自分で決める事が大切」と書きました。こう書くと、「保護者は子どもの進路に口をはさめないのかな？」と心配される方もいるかもしれませんが、そうではありませんね。

保護者として、子どもたちの生活や経済的な事などの面倒も見ていく保護者が、子どもの進路に関して意見を言うのは当然の事です。そして、保護者としての意見や願いがあります。子どもの将来を思っているからこそ、「こうなってほしい」と願います。そういう意見や願いなどは、ぜひ子どもたちに伝えて頂きたいと思います。

けれども、子どもには子どもの願いや意見もあります。お互いに意見が食い違い、衝突する事もあるでしょう。そういう時には、「お互いの意見をしっかり相手に伝えたい」うえで、「いっしょに考えていく」事が必要になってきます。

最終的にはその人生を歩いていくのは子どもたちです。どんなに「子どもによかれ」と思ってすすめた道でも、必ずよいとは限りません。そんな時、子どもが「そうだから」といって、大人は子どもに代わってあげる事はできません。

「自分の進路は自分で決める」という事は、そういう進路の分かれ目で決断していく子どもたちを「大人の一人として認める」という事でもあるのです。子どもたちが大人になっていく大事なチャンスをいっしょに応援していってもらえればと思います。

たかが入試、されど入試

ところで、大人の立場からすれば、「中学三年生で、先までの進路がすべて決まってしまうものではない」事は、ある意味であたり前の事でしょう。先の見えない子どもたちは、(まだ人生15年ですから)不安になりがち。「これですべてが決まってしまう」と思いがちです。そういう時こそ、先の人生を歩いている大人として、「たかが入試」というようなゆったり、どっしりとした立場で接する事も大切で、その方が子どもたちは安心して力を発揮できると考えます。

けれども、そうは言っても、「されど入試」。人生の節目で最大限の努力をすることは大切な人生経験だと思います。子どもたちがこれからの道を自信をもって生きて行けるように、励ましてあげるために保護者と教師が手を携えていきましょう。

